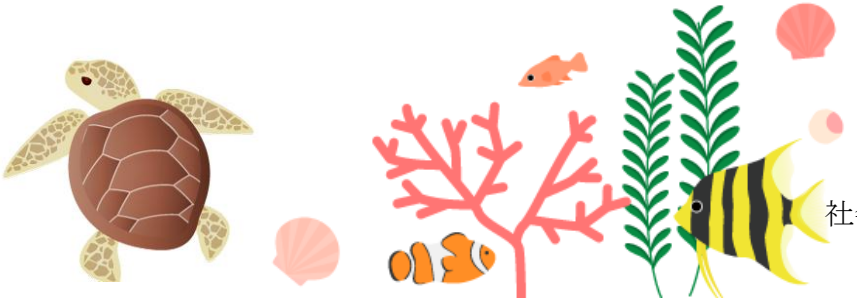
園だより



令和７年８月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

『子どもたちにつなぐ未来　And the world will be as one』

一つ目のお話です。園長の研修で、プロダイバーで環境活動家の武本匡弘氏の講演を聞く機会があり、海で急速に進んでいる環境破壊の実態について勉強してきました。温暖化による海水温の上昇で、沖縄のサンゴは死んで白化、北海道では昆布わかめひじきが育たなくなり、太平洋では島が沈んでいるという実態でした。気温の上昇では、子どもたちの保育内容にも影響がでています。年長児が運動会にむけて竹馬の取り組みを進めていますが、もはや外で活動できる気温ではありません。毎年更新される暑さに、次年度にむけて、運動会の内容の見直しは検討課題です。環境の問題は、海も陸も待ったなしの状況です。

二つ目のお話。７月、日本経済新聞社から、保育士配置基準の貧しさと、日本の長時間労働の問題を絡めての取材を受けました。複数の保護者の方が、取材を受けてくださいました。保護者の方のお話を紹介します。保育園にお迎えに来て、自宅に帰ってから夕飯、入浴、就寝までの忙しさ。就学すれば宿題や提出物の確認も加わっていくこと。お父さんが子どもの体調不良で早退する場合の職場の空気は、まだまだ冷たいという話も出ました。お母さんからは、責任のある仕事をしたいのに、育児を理由に配慮されすぎるのも悔しいというお話。個人事業主の保護者の方からは、代わりがいないから仕事の〆切前に、我が子の具合が悪くなり保育園を休むことになると、寝ないで仕上げるしかないということなど、それぞれの保護者の方が、仕事や職場で格闘し、帰宅してからも葛藤しながら我が子と向き合っておられる様子がありました。最後に、この状況を変えるために、生活の時間にゆとりがほしい。子育てしているか否かに関わらず、全員が早く帰宅し、夕方の時間にゆとりがある社会になれば、もっと笑顔があふれるのではなかろうかということになりました。保育者として、保護者の方の気持ちに共感しました。なぜなら、子どもたちとゆとりを持ってかかわりたいという保護者の方の気持ちは、保育者が「子どもたちにもう１人保育士を！」という願いと同じだったからです。同じ願いの保護者、保育者がたくさんいるのに、世の中は変わらないまま進んでいきます。

最初、私はこの二つのお話を、別々の話と考えていました。しかし、根っこは同じなのではないか。長時間労働、長時間保育、保育士配置基準の貧しさ、地球温暖化はリンクしているのではないか。このままでは子どもたちの未来のために良くないと思いながら、変わらず進んでいる点においても。

今の便利さが 100%として、私たちが 10%の不便を受け入れることができれば、変わるのかもしれない。ネットで買ったものが明日届かなくても構わない。それは一例として、全てのレベルを少しだけ全員で下げることができたら、みんなで早く帰れて、収入も下がらない。温暖化のスピードだって落とせるかもしれない。You may say I’m dreamer　But I’m not only one　I hope someday you’ll join us
And the world will be as one　（イマジンより引用）

●０歳児クラスの新入園に伴い、羽鳥千春保育士はみかんぐみ担任として配属します

●夏季中、卒園児は学生アルバイト、保育士の実習生、小学校の先生は研修で子どもたちと関わります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
８月	頭ジラミチェック			避難訓練		プロの音楽家コンサート誕生会・写真	の日	プール納め			山の日									健康診断（０・３歳児）	運総会集会①							運動会集会②			